

いのちと健康を守る活動

—CMIP ジョジョのクリニック日誌から—

<医療支援、12月—2月の報告より>

<巡回診療>

1/17: マルゴン町サムラングで、マドリッド歯科医夫妻による歯科診療実施（受診数 34 人）。一般診療は、血圧測定、問診により、風邪など軽症患者には市販薬を処方、ラグンデの栽培と煎じ薬活用を勧めた。

2/4: マルゴン町アトモロックで、同じくマドリッド夫妻の協力で、歯科診療実施（受診患者 36 人）

一般診療については、特別の場合を除いて、巡回診療の医師がいないため、問診と血圧測定により、生活上の助言をし、市販薬やハーブ薬を渡している。歯ブラシの励行、裏庭での薬草・ラグンデの栽培、健康保険加入指導にも努めた。



サムラングでの血圧測定。会場は 19 年前の HANDS 支援によるコーン出荷場を兼ねたクリニック。

<CMIP 本部クリニックでの患者支援事例>

12/2: マラパタン町ナブルの男性（23 歳）が眩暈やだるさ等を訴えて、ジェネラルサントスの病院で検査を受け、低血糖と診断され 6 日間入院した。健康保険加入済みで、サランガニ州の医療補助も受けることができ、支払いはわずかで済んだ。カリウムの多いバナナをもっと食べるように勧めた。

2/26: マラパタン町ナブル小の男児（13 歳）が、6 週間続く咳や午後からの発熱、2 カ月以続く食欲不振、体重減少で入院した。小児結核との診断で、6 か月の薬服用の指示が出た。薬代が高いため、ヘルス予算案で一部支援し、家では家族への感染に気を付けるように指導した。

<各村での母親クラブ、教師の活動>

1/24: チボリ町バサグ村の 2 地区で母親クラブの発足指導をした。各 6 名の役員のもと、2 月以降の月例会で、薬草栽培、活用の講習などを行う予定。

2/25-28: 教師たちから、児童の家庭訪問指導について報告を受けた。アトモロックはトイレ設置、薬草畑作り、歯磨き指導等、週末の家庭訪問がしっかりできていて、児童や住民の健康改善に期待できる。

PIHS と協働のムスリム・コミュニティの健康な村作り活動—今年の事業と将来の構想—

<ブラコンの薬用石鹸作りとバロンギスの薬草園>

昨年度は、耕運機貸出やバニグ編など、各村の自主財源事業の継続のために、PIHS 担当スタッフの給与・交通費等最小限の支援にとどめましたが、今年度は、再度 NPO 法人 WE21 ジャパンみどりのご協力で、下記のような活動からなる事業を実施します。

- 1) アラベル町カワス村ブラコン地区における自主財源創出事業：抗菌作用もあるという薬草マルンガイを入れた石鹸作りと販売。従来のヤシ屋根材の共同集荷、出荷も継続します。
- 2) パリンバン町バロンギス村の青年隊主導のモデル薬草園作りと研修事業：耕運機貸出事業が成功したバロンギスで、元奨学生を中心に各種薬草の栽培と青年特有の課題、テーマによる研修会の開催。
- 3) ウファの研修所における各村のヘルス組合役員の研修会：自主財源事業の経験、課題等を共有します。
- 4) 保健ボランティアの子どもたちを対象とする奨学金支援：保健ボランティアの定着と健康な村作りを担う次世代の育成をめざし、小学生、ハイスクール生に奨学金を支給。

<ムスリム医療チーム PIHS 自立へのシナリオ>

左欄のブラコンのように地域ベースの自主財源事業に対して、PIHS 自体の自主財源も懸案の課題になっています。数年前にはハーブ薬大量生産施設を造る話もありました。HANDS の支援能力を超えると分かっていたのか、予算詳細の提示や支援要請はありませんでした。

しかし、昨年度の HANDS 支援が自己資金による 10 万ペリのみと最小限だったことや、今年代表のナブサさんが他団体勤務を辞めて、PIHS に専心することになって、自主財源事業が具体化したようです。

3 月の訪問時に、施設のレイアウト図を受け取りました。ハーブ薬製造も含まれますが、ミミズ利用の土壌改良など循環型農畜産施設を、ナブサさんの夫の村カワスに造るというものです。自主財源を持てば、12 年余りの私たちの PIHS 支援に一区切りつけられます。今年はそのための一歩を踏み出したいと思います。



レイアウト図を届けてくれた時のナブサさんと夫のハッサン